

織田 澤 利 守

オタザワ トシモリ



趣味はサッカーです。

都市・交通分野におけるEBPM実現に向けた統計分析手法の開発

近年、政府が推進する統計改革等によって、社会経済統計データの利用可能性が高まっています。また、デジタル技術の進展に伴い、多種多様なデータの生成や収集をリアルタイムで行うことが可能となりつつあります。そうした中で、得られたビッグデータを適切に解析し、エビデンスに基づく政策として、都市・交通の計画やマネジメントに反映することが求められます。来るべきSociety5.0における都市・交通計画のための新たな統計分析手法の開発を目指しています。

keyword

□EBPM (Evidence based Policy Making) □ビッグデータ解析 □プロジェクト評価

交通インフラ整備効果の因果推論に関する研究

交通インフラ整備がもたらすストック効果を統計データを用いて事後評価するための方法論を開発しています。適用事例として、企業間取引ネットワークデータを用いて、九州新幹線整備に伴う取引ネットワークの変化が企業の生産性に及ぼす影響について推定を行いました。

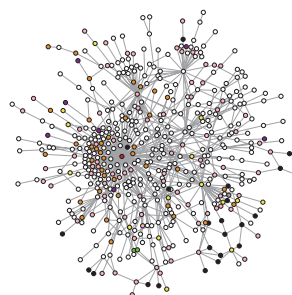


図1：企業間取引ネットワーク

シェアモビリティ・システムのデータ解析と管理運用の最適化に関する研究

都市内における新たな交通手段としてシェアモビリティが注目を集めています。シェアモビリティサービスの運営では、利用者の利便性を高めると同時に、システム運用の効率化を図る必要があります。シェアサイクル利用のビッグデータから需要予測モデルを構築し、システム運用の最適化を行うアルゴリズムを開発しました。



図2：シェアサイクル